

分野（3）

ぜん息発症予防・健康回復のための知識の体系化に関する調査研究

- ① 小児・思春期を対象とした健康相談・健康診査・機能訓練事業を効果的に実施するために
事業従事者が有すべき知識の体系化に関する調査研究

研究課題名：小児・思春期を対象とした健康相談・健康診査・機能訓練事業を効果的に実施するために事業従事者が有すべき知識の体系化に関する調査研究

調査研究代表者氏名：赤澤 晃

評価コメント

○eラーニングシステムをいかにして普及させ、また関係者に広く勉強してもらうかが今後に託された課題であると思う。その成果に期待したい。

○治療ガイドラインの目指す目標に向かって治療を進めるためには医師のみでなく、コメディカルによる患者教育が効果的、効率的であることは広く認識されている。今回日本小児難治喘息アレルギー疾患学会では小児アレルギーエディケーター制度を設立したことは非常に意義あることである。その研修システムの中に集合型研修に加え、eラーニングシステムを導入し、その教材が作成された。しかも研修を終えた段階で学会が認定する資格を与えることはこれに携わるスタッフのモチベーションを高める効果もあり、今後その評価に関する研究成果が期待される。

○アレルギー疾患の長期管理の上で患者教育のために医師や看護師が関与することは現行の医療制度では限界がある。したがって、この目的のために専任のコメディカルスタッフを養成することは重要で有用である。全国的にも推奨できるような要請システムを築き、その成果を検討し、社会に還元してもらいたい。

○アレルギー疾患全般について患者教育ができるようなコメディカルスタッフを養成することは社会のニーズにも合った良い企画である。人件費の問題など現実的ないろいろなハードルがあると思うが、持続できるような現実的なシステムを構築してもらいたい。

○健康相談や機能訓練事業を効果的に実施するためにコメディカルの役割の重要性に着目し、その人たちの研修のためのeラーニングシステムの構築とコンテンツを作成したことは大いに評価できる。また、この研修母体を、日本小児難治喘息アレルギー疾患学会としているが、このシステムを利用できるのが学会員のみであると、本研究費の趣旨からは不適切であるので、システムやコンテンツの評価が確立したら、より多くの関係者に供用できるように考慮して欲しい。

○eラーニングシステムでは果たしえない患者を直接接触する実習面の配慮が必要である。